

新舞子地区におけるニセアカシアの分布拡大とクロマツへの影響について

いわき農林事務所 岡田健吾 齋藤綾香 遠藤普子

いわき市新舞子地区のクロマツ林は後背地の農地及び宅地を潮害から守るため、古くは藩政時代から植栽が始まり、明治以降には順次保安林に指定され、県においても整備を進めてきた。東日本大震災に伴い発生した津波に対しても、実際に瓦礫を捕捉する等、優れた減災効果を発揮した。

津波被害を受けた新舞子地区の海岸防災林では、早期復旧のための盛土及びクロマツを中心とした植栽を行い、平成27年度に造成が完了した。今後は、クロマツ植栽木の健全な生長を促すための施業を実施していく必要があるが、現在クロマツ植栽区域におけるニセアカシアの分布拡大が問題となっている。今回は津波被災後、クロマツ植栽区域に生育しているニセアカシアについて、生育・分布拡大状況及びクロマツ植栽木への影響等を調査し、報告する。

会津の林道橋の現状とこれから

会津農林事務所 武田 裕矢

林道に設置された構造物について、経年劣化が懸念されており、今後さらに増加していくことが見込まれるなか、適切に維持管理していくために各構造物の状況に応じた維持修繕計画を採用することが望ましい。そのため林道施設の現状を把握し、個別施設計画を策定することが求められている。

林道点検診断事業は、林道橋の各部材の状態を把握し健全性の診断および必要な措置の判断をすることにより、適切な維持管理を行うための情報を得ることを目的に実施している。

本発表では、平成 25 年度から実施している点検診断結果をもとに、会津管内における林道橋の劣化・損傷状況について報告し、これからの林道施設の維持管理について考察する。

森林土木事業におけるドローン(UAV)の活用

県北農林事務所 桑川隼人

県北農林事務所では災害発生箇所における効率的で安全な測量方法の比較・検討を行ってきたが、過去に検証した地上測量方法では「精度・労力・安全性」において全て適していると判断されるものはなかった。そこで今回は、調査者の危険性が少なく、少人数で広範囲を測量することができる「ドローン (UAV) 測量」について、「精度・労力・安全性」の観点から、災害発生時の測量への適応について検証を行った。

治山の山腹工計画箇所における委託成果品との比較、及び過去に検証した、コンパス測量、レーザー測量、GPS 測量、スマートフォン測量の 4 つとの比較検証を行った。また、今回使用した機器やソフトによる測量経費や測量技術の面から、実際に事務所単位でドローン (UAV) 測量を行うことが可能であるのか検討を行った。

林道施設長寿命化計画策定に向けた取組

森林整備課 齋藤卓

平成25年11月に関係省庁による「インフラ長寿命化基本計画」がとりまとめられ、国や地方公共団体等が一丸となってインフラの戦略的な維持管理・更新等を推進するための方向性が示された。

林野庁においても、平成26年3月、平成27年3月にガイドラインやマニュアルが作成され、林道施設においても長寿命化対策の充実を図っていくこととなり、施設の点検・診断も実施され、平成31年度末までに個別施設計画策定が義務づけられた。

点検・診断は完了を迎えてきたが、個別施設計画の策定にあたり、市町村の財政面、人材面、業務面などにより策定が進んでいない状況となっている。

そのため、個別施設計画の策定の推進を図るべく、現在進めている内容について発表する。